

の一時期磐城平藩領となった村もあったが、慶応四年（一八六八）四月まで百四十余年間に、四五人の代官により支配された。代官所は慶応四年、奥羽鎮撫総督府が最後の代官多田銃三郎の退任願を認め、仙台藩に接収させたことにより終りを告げた。棚倉藩領の村々は、天明四年の支配替えのあった前記の村と、堀越、西河内、東河内、常世北野、湯船、山形、田代、大畑、前田、大蔵、湯岐、那倉、片貝の各村であった。

なお、太田資晴の移封後は上野国館林より松平武元が入封し、延享三年（一七四六）旧領館林に移封。遠江国掛川より小笠原長恭が入封。長堯、長昌と在封し、文化十四年（二八一七）肥前国唐津に移封すると、遠江国浜松より井上正甫が入封。家督を継いだ正春が天保七年（一八三六）館林に移封となり、石見国浜田より松平康爵が入封。康圭、康泰、康英と四代にわたり在封し、慶応二年（一八六六）武蔵国川越に移封すると、白河より阿部正静が入封したが、同四年の戊辰戦争に際して奥羽列藩同盟に参加。同年六月二十四日奥羽征討軍の攻撃を受け棚倉城は落城。丹羽長重の棚倉城築城（寛永元年・一六二四）以来阿部氏まで八家一六代の歴史は幕を閉じた。

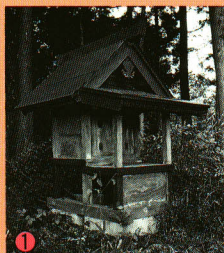
寺西代官掛幅画



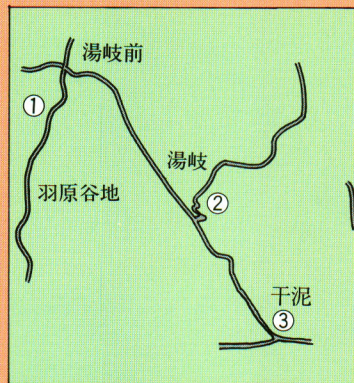
木野反



①熊野神社



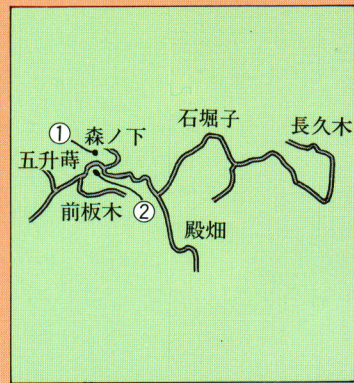
湯岐



①羽原谷地遺跡②温泉鎮守八幡宮本殿③湯岐阿弥陀堂（木造阿弥陀如来立像）



片貝



①十殿神社②片貝小学校（門前碑石）

